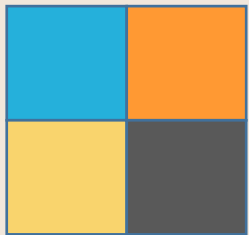


日本語教師の育て方 — 『超基礎・日本語教育』を使った日本語教師養成

2020年11月7日（土）

学習者の目から見た 日本語



県立広島大学 中石ゆうこ

新語動詞の活用(『超基礎日本語教育』第8章課題3)

日本語母語話者 (JNS)

- ルールはわからないけど、同じように活用できる。

天下る (あまくだる)	I
ポチる	I (ポチラない)
ググる	I
オケる	I (オケらない)
デコる	I

学習者

- ルールはわかるけど、JNSと同じ活用ではない。

天下る (あまくだる)	I
ポチる	II (ポチない)
ググる	I
オケる	II (オケない)
デコる	I

オノマトペ

日本語母語話者 (JNS)

- なじみが深い。
- 子どもが言語習得をするうえで、大きな助けとなる。
(ex: ポーンして>投げて)
- 一語で豊かなイメージを想起できる。
(ex: チクツとしますよ。)

学習者

- 優先的に学ぶ語彙ではない。
- 比較的、上のレベルで学ぶ。
- 対訳や説明でイメージを想起するしかない。
- なじみの深いものもある。
(ex: 「家でゴロゴロする」は分かります。)

オノマトペに関するつぶやき

- 「ムカムカ」は星の瞬き？
- 「ハラハラ」は元気な様子？
- 「わくわく」は水蒸気が上がる様子？
- 「もじもじ」は字を書いて遊ぶ様子？

(中石・佐治・今井・酒井2011)

自動詞・他動詞

日本語母語話者 (JNS)

- ペアを持つかどうか分かる。
(ex:食べるにはペアはない)
- ある動詞が自動詞か他動詞か急に聞かれると分からない。
- 初期の子どもの習得でも誤りが見られる。
- 言い誤った場合、間違いに気づく。

学習者

- ペアを持つかどうか分からない。
- 自動詞か他動詞か即座に答えられる動詞もある。
- 上級でも誤りが見られる。
- 自分の誤りには気づかないことが多い (中石2005)

自動詞・他動詞に関するつづやき

- 口をついて出てしまう動詞と、どちらか迷って使う動詞がある。
(中石2005)

- 受け身なのか、使役なのか、可能形なのか、それとも自動詞、他動詞なのか、分かりにくいなあ。
(ex.) *ファイルが見つけない。 / *体が浮かべない。

(中石 非公開データ)

「わかる×できる」で文法の役割を考える



「わかる」と「できる」

「宣言的記憶」 = わかる

ルールやイメージで明示的に説明できる、意識化できる記憶
(エピソード記憶：経験＋意味記憶：規則)

「手続記憶」 = できる

ルールやイメージで明示的に説明できるとは限らず、意識下で働く記憶

繰り返しにより頑健な手続記憶となる = スキル化された記憶
(太田1999a,b)

「わかる」と「できる」

	できる	できない
わかる	ルールがわかって、 かつできる	ルールがわかる けれど、できない
わからない	ルールがわからない けれど、できる	ルールがわからなく て、かつできない

「わかる」と「できる」

日本語母語話者 (JNS) (※成人)

	できる	できない
わかる	ex.)動詞の活用 (学校文法の知識)	-
わからない	ex.)自動詞・他動詞 オノマトペ 新語動詞の活用	-

「わかる」と「できる」

学習者		
	できる	できない
わかる	ex.) 「マス」の否定形は「マセン」	ex.) 他動詞は「を」と使う
わからない	ex.) 名詞と形容詞の区別	ex.) 「ハ」と「ガ」

「わかる」と「できる」

学習者		
	できる	できない
わかる	問題なし	要指導
わからない	問題なし	要指導

最後に 学習者の目から見るために

- 「できない」、「わからない」の理由を想像する。
(ex: 私の一番の友達はキムさんです。あの人は福岡の大学に留学しました。)
(ex: 私は頭が痛いんですから、休みます。)
- 誤りに対して、「なぜそう思ったの?」と聞いてみるのも一案。

[学習者の目から見えることを想像するために]

- 学習者コーパス (KYコーパス) を最初から最後まで読む。
- 学習者からの質問リストを作る。

参考にしたご質問と回答

Q1：文法の授業が苦手です。類似文法などは学習者視点からどのように覚えているのでしょうか。

A1:新しい文法は、類義表現との役割の違いが分かって、有益だと思えば覚えようと努力するのではないかと思います。

ただ、覚えようとしても難しい文法規則もあります。加えて、記憶した文法知識を使用できるようになるかどうかは、また別の問題だと思います。

Q2:学習者はどのような講師を望んでいるのでしょうか。

A2:授業で「ルールは難しいので、丸暗記で覚えてください。」、「簡単だから、分かるでしょ。」と言われ続けるのは辛いと思います。

質問に対して、真摯に答えようとする姿勢を持っている講師を、学習者は望んでいるのではないかと思います。答えるときは、レベルに合わせることも必要です。

Q3:会話力アップには文法は重要でしょうか。

A3:文法は、理解や運用を助ける補助線のようなものだと思います。

自然習得の学習者の言語使用のデータから、文法の知識は流暢さを高めるためには必須ではありませんが、正確で豊かな言語運用のためには重要だと言えます。

また、文法の扱い方は学習者の年齢にもよることにも注意しなければなりません。

Q4:学び続ける姿勢はどうやったら養えるか。

A4:自分のやったことを常に振り返り、より良くする方法を考え続けることだと思います。この質問には、多くの答えがあると思うので、私もいろいろな人に聞いてみたいです。

参考文献

- 太田信夫 (1999a) 「宣言的記憶」 『心理学辞典』 有斐閣pp.516-517.
- 太田信夫 (1999b) 「手続記憶」 『心理学辞典』 有斐閣pp.613-614.
- 中石ゆうこ(2005) 「学習者は自動詞，他動詞を使い分けているのか？ -発話調査を用いた対のある自他動詞に関する習得研究-」 『言語学と日本語教育Ⅳ』 くろしお出版， pp.151-161.
- 中石ゆうこ (2020) 『日本語の対のある自動詞・他動詞に関する第二言語習得研究』 日中言語文化出版社

参考文献

- 中石ゆうこ・佐治伸郎・今井むつみ・酒井弘(2011)「中国語を母語とする学習者は日本語のオノマトペをどの程度使用できるのかーアニメーションを用いた産出実験を中心としてー」『中国語話者のための日本語教育研究』第2号 pp.42-58.